

## 「田んぼ」でわくわく・ドキドキ

千葉市緑区あすみが丘小学校 教諭 宮田 泰世

「小山町谷津田での米作り」との出会いは、今から6年前、私が大椎小学校で5学年の担任をしているときでした。葦の根が張りめぐっていた休耕田を復活させるために、当時のYPPの皆さんや保護者の皆さんと泥まみれになりながら作業したときのことは、今では楽しい思い出となっています。あすみが丘小で、再び小山町の田んぼに関わることができたことは、実に縁があるのだなと感じました。

私が育ったところは、千葉県の中でも稲作やビニルハウスでの野菜づくりが盛んな地域でした。また、幹線道路から少し離れた山間部の地域では、梨も栽培されていました。田んぼや梨畑での農作業は、小学生の頃の私にとっては当たり前な身近な仕事でした。



大椎小学校田んぼづくり 2007年6月17日

田植え前の代かきは、わくわく・ドキドキする仕事の一つでした。トラクターなどがなかった頃なので、鏡のような水田にするためには工夫が必要でした。父が運転する耕運機の後ろにロープで梯子を縛り付け、田んぼを耕運機で耕し均すのです。耕耘機でかき混ぜられた泥は柔らかくなり、梯子の重みで泥の凸凹が均されていくのです。子どもの仕事は、凸凹がきれいになるように梯子に乗ったり梯子を押し下したりして、少し重みを加えることでした。この仕事もおもしろかったのですが、それ以上にわくわく・ドキドキしたのは「コイ・フナ・クチボソ」等との出会いです。田んぼに水を補給するために堰水を用水路から導き入れます。その時に、フナ・コイ・クチボソ等が田んぼに流れ込んでくるのです。田んぼを気持ちよく泳いでいた魚たちにとっては、耕耘機でかき回されてはたまったものではありません。田んぼをかき混ぜられるのですから、魚たちは、耕運機の進行方向にバチャバチャと音を立てながら必死に逃げ回るのです。その勢いといったら言葉では表せないくらい見事なものでした。背びれを立て、ものすごい勢いで泳いできては人間の足の間をすり抜けていくコイやフナ、足に体当たりしてくる20cmくらいのコイ、すくい網を待ち構えているとその中に「ゴール！」と、入ってくるフナの群れなどを仕事そっちのけで泥まみれになりながら追いかけていました。「どうしたら魚をたくさん捕まえることができるか」網の仕掛け方を考えるのも楽しみの一つでした。機械化や耕地整理が進んだ今では、味わえない体験です。

稲刈りの時期には、専用の鎌を使って稲刈りをしました。少しでも仕事の足しになろうと、鎌の安全な持ち方、置き方、稲株の握り方など、母に教えてもらいながら真剣に稲刈りをしたのを覚えています。初めころは「どうして大人は簡単にできるのに、自分には出来ないのだろう」と、大人の作業を観察しながら何度も鎌を入れなおしました。そうしていくうちに、次第にザクッと一株を一鎌で刈り取れるようになってきました。刈り取った稲は、今年のわらを乾燥させたものを紐代わりとしてくるくると



結び、田んぼに竹の物干し竿のようなものを組み立てて、そこに洗濯物を干すようにひっかけて干します。これを「おだ掛け」と言っていました。この作業は、稲の葉がチクチクして腕がかゆくなり湿疹ができ大変でしたが、天日で干したお米はもちもちとして甘みのあるおいしいお米になるので、我慢をして干したものでした。干し終わると、稲が風にサワサワと音を立てて揺らめき、その横をトンボがつつんと飛んでいました。仕事を終えた後の家族みんなでのおやつタイムは、格別なものでした。

冬の田んぼは、子どもたちにとって格好の遊び場でした。辺りには電線や民家などが数えるほどしかなかったため、凧揚げをするにはもってこいの場所でした。北風が結構な強さで吹いていると、凧と数十メートルの凧糸を持ち、弟と凧上げ競争をして楽しみました。一番高いところまで揚げたときは、凧がごま粒に見えたほどでした。また、田んぼに張った氷の上をスケートだといってつつる滑って遊んだこともありました。雪が積もれば雪合戦で駆け回っていました。田んぼは、自然と親しみながら学べる場・仕事の場でもあり遊びの場でもあったのです。そこでの活動を通し、自然と地域に対する愛情も養われていたのではないかと思います。ですから、今でも実家の田んぼや梨畑のような風景に出会うとホッとしたやすらいだ気持ちになれるのです。

現在、子どもたちは、小山町谷津田で米づくり体験をさせていただいています。あすみが丘に住む子どもたちにとって、先人の残してくださった方法で稲作を体験させていただく場が身近にあるということは、とても恵まれていることだと思います。先人や自然の偉大さ、YPPの皆さんや保護者の皆さん、関わってくださった全ての人々への感謝の気持ち、労働の大切さを体感できる貴重な学びとなるからです。限られた時間の中での活動ですが、毎回の体験活動「わくわく・ドキドキ」を大切に、学校教育目標「創造性豊かな心と、たくましい心を持ったあすみっ子の育成」の具現化につながるよう、普段の学校生活に生かしていきたいと思っています。ここで体験したことが子どもたちの心身の栄養になり、将来の大きな実りへとつながるように願いながら、今後も子どもたちを支援していきたいと思っています。ありがとうございました。

## やつだ事件簿

今年の夏も暑く、谷津田の林の中でもいろいろな生き物たちの活動が活発だったようだ。谷津田の山部分あるあすみが丘の住宅街でも、タヌキやハクビシンの目撃情報を耳にした。食べ物を探してうろうろしているのか、定かではない。谷津田の山の一部分を地元の方々には畑にしているが、その畑での食害情報は毎日のように聞かれる。とうもろこしやトマト、スイカまで食べ散らかされているようだ。足跡を残しているため、4本足の小動物の仕業だということは明らかだ。つい先日、田んぼ脇の広場で大豆をつくっている Y さんから、悲しい報告を受けた。畑作業をしていたら、大豆の株が2株なくなっていることに気づいたという。畑は荒らされた形跡もなく、4本足の動物の仕業ではない。となると・・・おそらく2本足の動物によるものと考えられる。4本足の動物への対策として網を張ったり、罠をしかけたりするが、2本足の動物にはどうしたものか・・・大豆畑のすぐ脇には「立ち入り禁止」の札も立ててある。にもかかわらずである。畑だけではない。谷津田のほとんどは私有地であり、竹林であっても杉林であっても持ち主がいる。そろそろ頭を出しかけたタケノコを収穫しに行ったらすでに採られてなくなっていたなんてこともしょっちゅうだという。谷津田散策は本当に心地いい。目をこらせば、いろいろな生き物、植物、果樹を見つけることができる。が、それは持ち主がいるということにも気づいてほしい。



ルール・マナーを守ってネ！





# 里山たんけんレポート

## 第 164 回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2013年9月1日(日) 晴れ

今日はトンボの生息数の調査を行いました。谷津を A,B,C のブロックに分けて把握することにして、いつもの観察コースを巡ることにしました。3 チームに分け、記録担当者 3 名も決め、片端から捕らえて同定、雌雄を判別、記録紙に記録、ダブルカウントを避けるためトンボの右後翅に印をつけて放しました。B ブロックを終わった所で風になってしまい、結局、A,C ブロックは未了になってしまいました。台風が近づいていてその影響か風が強かったもののトンボは谷津南側の北斜面林縁下に多く枝先や葉の上にとまっていて勢いそれらを追いかける次第になり、アカネの仲間に記録が集中しました。田の上に飛ぶシオカラトンボなどの記録は少なくなりました。この辺は今後の課題ですがアカネの仲間についてはかなりの精度で把握できたと思います。トンボを調べるためゴミ拾いは同時に行えなかったので昼食後ゴミ拾いを単独で実施しました。普段の観察ルート外まで実施したため大量のごみが集められました。

(参加者 大人 11 名、高校生 4 名、こども 2 名； 報告：網代春男)

## 第 151 回下大和田 YPP「コシヒカリの稲刈り」(兼、第 8 回米づくり講座)

2013年9月14日(土) 晴れ

晴天に恵まれ、総勢 52 名の方々の参加があり、賑やかに、楽しくコシヒカリを刈りました。楽しくとはいっても田んぼはタカサプロウ、イヌビエ、チョウシタデ、タマガヤツリなど水田雑草が繁茂し、いかに生物多様性のための米づくりとは言いながらいささか度が過ぎた状態になってしまい稲刈りは大変でした。雑草を刈り払いよけながら稲を刈り、束ねるときも雑草を取り除きながらと手間暇がかかってしまいました。黒米、農林 1 号の刈り取りは残ってしまいましたが 3 時の終了時刻にはコシヒカリを刈り終え集合写真を撮り終了しました。子供たちはブランコ、ザリガニ釣り、虫とりなど飽きることなく終日元気に野遊びを楽しんでいました。最後に子どもたちに落穂拾い(1 点)と雑草のイヌビエ拾い(3 点)を 5 分間ゲーム形式でやって、92 ポイントを獲得した山口真人君が優勝して収穫祭の時お米 1Kg を贈呈することになりました。

(参加者：大人 33 名、こども 12 名、幼児 7 名；報告：網代春男)

## 第 152 回下大和田 YPP「脱穀」(兼、第 9 回米づくり講座)

2013年9月28日(土) くもり

最初に刈ったコシヒカリ、黒米、農林一号の 3 種類のイネを脱穀しました。ハーベスタという気をつけないと危険な機械を使うので最初に使い方や注意事項をみんなで確認してからスタート。ハーベスタが順調に動いてくれたので脱穀はどんどん進みました。大変だったのは機械を通っても稲束に残っているモミの付いた穂を抜き出してもう一度ハーベスタに通す作業。ひと束、ひと束、人海戦術で進めていくと結構な量のお米が回収できました。自分たちで育てたお米なので少しでも無駄にしたいくない思いが伝わってきます。予定の時間を少し超えたくらいで脱穀し終えることができました。モミでいっぱいになった袋が並んでいるのを見るとうれしくなりますね。



(参加者：大人 33 名、こども 12 名、幼児 7 名；報告：網代春男)

## 第 97 回小山町 YPP「コシヒカリの稲刈り」

2013年9月22日(日) 晴れ

お彼岸だというのに強い日差しが照りつけて 30 度を超える残暑の中、コシヒカリの稲刈りをしました。雑草の勢いがすごく、場所によっては草刈りか稲刈りかわからないところもあって大変。雑草があるとないとで稲刈りのスピードが倍くらい違うので目標の田んぼが 1 枚終わるかどうかが途中で不安になったのですが、汗をたくさん流しながら皆さんががんばってくれたおかげで、ちょっぴり時間オーバーで刈り終えました。田んぼからオダに移ったイネを見てホッとしました。(参加者：大人 6 名、子ども 2 名； 報告：高山邦明)



## <谷津田・季節のたより>

### 小山町

- 9月 1日 センニンソウやゲンノショウコが咲く。色づいたマイコアカネやコノシメトンボを見かける(高山)。  
9月 14日 ミズヒキヤクスが咲く。イネの間を真っ赤なマユタテアカネが飛び(高山)。  
9月 16日 モズの高鳴きをはじめて聞く。まだ声が弱々しい感じ。田んぼに大きなアカガエルの姿を頻繁に見かけるようになる。冬眠に向けて集まってきているのか?(高山)。

### 下大和田

- 8月31日 & 9月1日 両日タイリクバラタナゴの稚魚が捕らえられた。稚魚であるので繁殖していると思われる(網代)  
9月14日 稲刈りの日、モズの高鳴きが始まった(網代)。

## イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなど思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないでください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

## ▼下大和田 YPP 153回「緑米の稲刈り」(兼第10回米づくり講座)

### 154回「同・脱穀」(兼第11回米づくり講座)

2回めの稲刈りはおもちつきに使う緑米です。そして脱穀をします。特に脱穀については稲の乾燥具合や天気によって日程が変わる可能性がありますので、当日や前日の天気が悪い場合はご注意ください(このホームページで前日にはお知らせします)。

日時: 稲刈り 2013年10月26日(土) 10~14時 ☆小雨決行

脱穀 2013年11月9日(土) 10~14時 ☆小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:53、9:08、9:23など> 料金は520円)

持ち物: 弁当、飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物など。

参加費: ちば環境情報センター会員および家族100円、一般300円、小学生未満無料

主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

## ▼第166回 下大和田11月の谷津田観察会とごみ拾い

まだまだ元気な生きものがあります。冬鳥の一陣も渡って来ている頃です。深まった秋の谷津田を巡ります。

日時: 2013年11月3日(日) 10~12時 ☆小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00(下大和田 YPP に同じ)

持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば・谷津田フォーラム 共催: ちば環境情報センター

## ▼第98~100回 小山町 YPP「稲刈り・脱穀」

9月から11月は農繁期。何度かにわたってコシヒカリ、黒米、そして緑米の稲刈り、脱穀をします。

日時: 2013年10月13日(日)、20日(日)、11月3日(日) いずれも10:00~12:30、小雨決行

場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場(ご連絡いただければ地図をお送りします)

持ち物: 飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物など。

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば環境情報センター

**編集後記** 下大和田も小山も今が米づくりで一番忙しい季節。稲刈りを終わると田んぼがすっきりしてオダが重い稲束を支え、脱穀をするとオダが骨組みだけになり、ずっしり重い袋にモミが集まります。収穫が広い田んぼからどんどん集約されていくプロセスは、汗を流した労働の成果がしっかりと目に見えて、やりがいを感じられる喜びの時間です。初心者歓迎ですので、ぜひ、田んぼに来てみてください。(高山 邦明)